

震災遺構



震災遺構 仙台市立荒浜小学校の外観。(提供・立石知己/CC BY-SA 4.0)

教員のための

震災遺構を通じた 「いのち」と「暮らし」の 学びの手引き

荒浜小学校

わたしの防災から、 わたしたちの防災へ。



震災遺構指定前の校内。訪問者や卒業生のメッセージで埋め尽くされた黒板。(提供・3がつ11にちをわすれないためにセンター/せんだいメディアテーク)



平成27年9月に七郷小学校で行われた「ふるさと荒浜学区民大運動会」。この年度末に荒浜小学校は閉校、七郷小学校と統合された。(宮城教育大学)

平成23(2011)年3月11日に発生した大地震と津波から8年が経過し、東日本大震災を知らない子供たちが就学期を迎えています。地震や津波による被害を繰り返さないためにも、震災の記憶を風化させないように、震災の経験を語り継いでいく必要があります。

この「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」は、被災した校舎をありのままに保存し、震災や地域に関する貴重な資料とともに公開しているものです。校舎を目にし、荒浜にゆかりのある職員の声に耳を傾けることで津波の威力を想像し、非常時への備えについて教室では得られない学びが可能になります。

また、震災前の荒浜地域に関する展示を前に、美しい砂浜に面したこの地域の過去に思いを寄せることで、当時の日常生活の尊さが実感させられます。当たり前な日常は、いのちと暮らしを守ろうとする様々な人の思いや取り組みがあってはじめて成り立つものです。そんなことへの気づきを促す展示は、社会と関わる一人一人の生き方を考えたり、ともに生きていく集団としての学級や学年のあり方を考えたりするために格好の教材です。

子供や地域に対する様々な人の思いに<気づき>、それを他人事ではなく我がこととして<受け止め>、さらに地域が一体となって次の世代へといのちのバトンをつなぐ——そんな営みに少しでも役立てていただきたいと考え、この冊子を作成しました。探究的な見方・考え方や、自己の生き方を考える資質・能力を育むために、学校で行われている様々な学びにおいても活用いただけたらと思います。

震災の記憶を手がかりに、いのちや暮らしについての深い学びを経験した子供たちが、心も体もよりいっそうたくましく育ってほしいと願っています。



国立大学法人
宮城教育大学

協力：  仙台市

震災遺構と関連施設

震災遺構 仙台市立荒浜小学校

荒浜地区は、仙台市中心部から東に約10km離れた太平洋沿岸部に位置しています。海岸線に沿うように歴史ある運河「貞山堀（ていざんぼり）」が流れ、その周囲に約800世帯、2,200人の人々が暮らす集落がありました。

1873（明治6）年創立の荒浜小学校は、海岸から約700m内陸に位置します。東日本大震災発生当時は91人の児童が通っており、職員や住民らと合わせて320人が校舎に避難。押し寄せた巨大な津波は2階まで達しました。



【上】正面から見た仙台市立荒浜小学校の様子。
【下】震災前の荒浜地区（2007年撮影）。

せんだい3.11 メモリアル交流館

荒浜小学校と合わせて訪れることで、東日本大震災についての深い学びとともに、様々な人や地域と関わりながら「生きる」ことそのものを学ぶことが可能となります。

仙台市東部沿岸地域における震災被害の記憶と教訓を伝承する場所、人々が交流し、未来をつくる場所として、展示室・交流スペース・スタジオ・屋上庭園などが設置されています。

<常設展>では、過去・現在・未来の時間軸にそって、地域の歴史や震災復興に関わる記録を展示。「わたしたちの3.11」「沿岸イラストマップ」コーナーでは、来場者個人の経験や思い出を共有する仕掛けも。様々な切り口で震災やまちに迫る企画展やイベントも催され、被災地の未来と来場者をつなぐ取り組みを提案します。



TOHOKU
MIYAGI

MINAMI-SANRIKU

ISHINOMAKI

HIGASHI-MATSUSHIMA

SHIOGAMA

SENDAI

メモリアル交流館

荒浜小学校

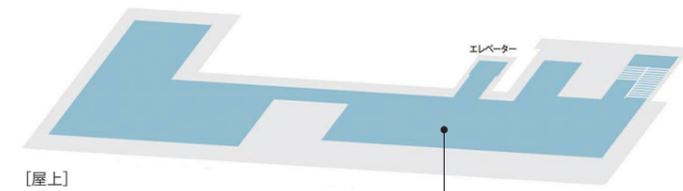
NATORI

WATARI

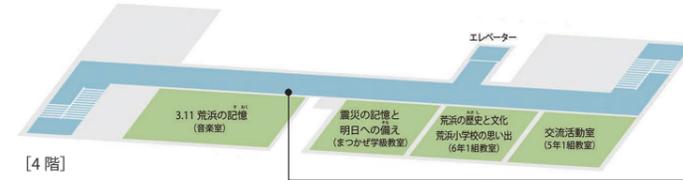


【上】メモリアル交流館の入る地下鉄東西線「荒井」駅舎。
【下】メモリアル交流館内部の様子。

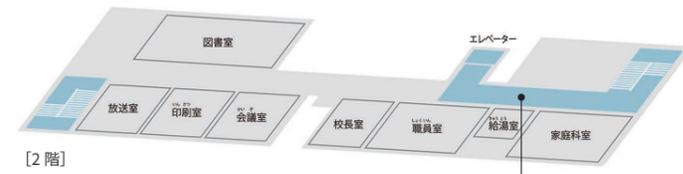
【荒浜小学校 展示のご案内】



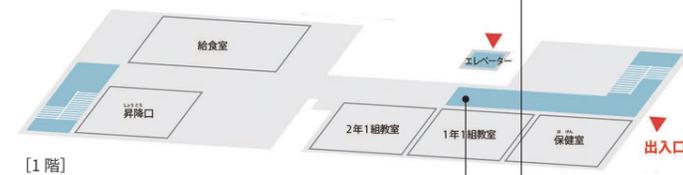
【屋上】



【4階】



【2階】



【1階】

立ち入り可能範囲 展示室
※3階は公開していません。

1階 / 2階（廊下から見学・各階20人程度目安）

- 1階 津波により破損した保健室・教室の被害
ガレキに埋もれた被災直後の写真
- 2階 津波到達ライン（1階は水没、2階は床上40cm浸水）
津波で倒れたベランダ壁・津波のしぶき跡

校舎外

津波が直撃した校舎東側の外壁・体育館跡地

【映像】

4階 音楽室（最大40人程度視聴可）

・映像「3.11 荒浜小学校の27時間」（約17分）

14時46分の地震発生から、発災27時間後の避難者全員の救出までを、当時の教員や町内会長などへのインタビュー、消防ヘリの映像などを交えて紹介するものです。

<見学方法>

- ① ワークシートを活用しながら展示を見学し、気付いたことを共有する。
- ② 映像資料を視聴した後、展示から荒浜地区の3.11の前と後、私たちの地域と未来を考える。
- ③ 荒浜地区にゆかりのある職員の話聞きながら見学する。※事前にご相談ください。

【展示】

校舎内外の被害状況や被災直後の様子を伝える写真などから、荒浜小学校を襲った津波の威力を知ることができます。

各展示の学習内容をまとめるワークシートをWeb上にご用意しています。（p.8参照）

屋上 荒浜地区の過去と現在（写真5セット）

荒浜地区全体を見渡しながら、被災前後の風景を比較することができます。海や貞山堀との距離感や、かさ上げ道路の工事状況なども見ることができます。

4階（教室内の展示見学）

荒浜小学校における、地震発生から避難、津波の襲来、そして救助されるまでの経過を振り返るとともに、災害への備えについて学ぶことができます。また、荒浜地区の歴史や文化、140年の歴史を刻んだ荒浜小学校の思い出なども紹介しています。

・音楽室

津波到達時刻で止まった体育館の時計

・まつかぜ学級教室

荒浜小学校での避難生活の再現

仙台市の津波対策・荒浜小学校と防災

・6年1組教室

かつての荒浜地区を再現した模型

荒浜小学校の思い出

・5年1組教室 交流活動室

震災前後の荒浜地区を紹介するテレビ映像



旧音楽室（3.11 荒浜の記憶）では映像視聴も。



震災前の荒浜地区を再現したジオラマ。



1階廊下を見学する様子。



校舎の東側外壁。（Shutterstock.com）

震災遺構の活用例

活用プラン①

防災リーフレットをつくろう

小学校高学年・総合的な学習の時間 震災遺構を活用した授業プラン（10時間扱い）



荒浜小学校の屋上から、荒浜地区全体を見渡せる。写真は2012年、国際通貨基金（IMF）ラガルド専務理事来訪時に撮影されたもの。（REUTERS）

	学習活動	時間	評価規準
課題設定	○自然災害とその被害について考える。	2	◇防災学習に取り組む大切さに気付き、調べようとする気持ちを高めている。 【学びに向かう力・人間性等】
	○荒浜小学校を見学し、東日本大震災の状況や概要を知る。 ・地震災害の大きさを理解し、万一に備えることの必要性についての意識を高める。		◇自分が調べたい学習課題について理由を考え、調べたいことを決めている。 【知識・技能】
情報収集	○自分たちの地域の防災上の課題について話し合い、単元を通しての学習課題をつかむ。 ・自分たちの地域で起こりうる災害にはどのようなものがあるか話し合い、自分や自分の周りの人たちを守るために学習しようとする気持ちをもつ。	2	POINT ・荒浜小学校の被害のみでなく、被災前の暮らしや地域の人々の思いに触れることで、児童の今の生活と結び付ける。 ・実感を基に、自分と大切な人・まちを守るため、必要な準備を共有することの重要性に気付かせる。
	○地域で起こりうる自然災害を考え、課題計画を立てる。 ・自分が特に調べたいこととその理由を考える。 ・課題を精選し、実際に調べたいことを「防災」の視点も含めて具体的に決める。		
整理・分析	○災害が起きる原因を調べ、どのような被害が想定されるか考える。	2	◇課題に沿って計画を立て調べている。 【知識・技能】
	○自分たちの学校や家庭では、どのように災害に備えているか調べ、自分たちがこれからすべきことを考える。		◇自分の地域での災害対策について知り、今後自分がなすべきことについて考えている。 【思考力・判断力・表現力等】
まとめ・表現	○自分たちの地域では、どのように災害に備えているか調べ、自分たちがこれからすべきことを考える。 (例) ・災害にかかわる施設がある場所 ・災害に備えた協力体制や関係機関との連携 ・自治会や自主防災組織による防災訓練 ・地域の防災倉庫の管理や整備 ・防災や日常の備えに関する呼びかけ	3	◇調べたことを防災の視点ももちながら、効果的にまとめている。 【思考力・判断力・表現力等】
	○学習を通して発見したことや考えたことを、下級生や家族、地域の方々に向けて発表する。 ・防災意識をもつことの大切さを下級生や家族、地域の人に発信する。 ・自分とは異なる視点で調べた友達の発表を聞き、防災への意識を広げる。		◇防災リーフレットを発表しながら、調べたことを下級生や家族、地域の方々へ伝えている。 【思考力・判断力・表現力等】
	○学習したことを基に交流する。学習活動を振り返り、自分ができることや地域とのつながりを考える。	3	◇学習したことを基に、今後防災や地域とのつながりのために自分ができることを考え、実行しようとしている。 【学びに向かう力・人間性等】

POINT

- ・荒浜小学校の被害のみでなく、被災前の暮らしや地域の人々の思いに触れることで、児童の今の生活と結び付ける。
- ・実感を基に、自分と大切な人・まちを守るため、必要な準備を共有することの重要性に気付かせる。



津波に襲われた荒浜小学校の体育館（提供・3がつ11にちをわすれないためにセンター／せんだいメディアテーク）。

活用プラン②

行事と連携した防災教育活動計画

プラン①のコンセプトを基に発展させ、年間を通した防災教育として小中学校の行事と関連を図ったプラン

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
日本ではどの地域でも災害が起こり得ることを自覚し、災害発生のメカニズムや過去の事例について知るとともに、災害時に危険を予測し安全を確保することができる。	過去の事例を自分事として捉え、災害時に安全について適切に判断し対応する方法を考えるとともに、他者と共有することができる。	災害が起きた地域の人々に思いを寄せる中で、自らのコミュニティにおける防災について考え、よりよい社会の形成に主体的に取り組もうとしている。

月	震災遺構を活用した活動	各行事との関連	
		行事	内容
4	○東日本大震災について知る。 ・東北地方太平洋沖地震が日中の授業時間帯に発生したことについて知る。	防犯・避難訓練	・通学路を見直し、緊急時における対応について考える。
5	・各地域での被害、復興や防災・減災に向けた対応等について知る。	校外学習・自主研修等	・校外学習や自主研修計画に避難所や災害時の行動等を入れる。
6・7	○荒浜小学校について知る。 ・視聴覚資料を活用し荒浜地区の被害状況について知る。 ・震災遺構として残されていることを知る。	避難訓練（地震）	・地震発生時に取るべき行動について体験を踏まえ考える。 ・東日本大震災時における荒浜小学校の対応を踏まえ、避難訓練に取り組む。
8・9	POINT ・震災被害のうち、荒浜小学校は「学校での被災」であることに着目し、私たちの学校生活との共通点を意識させる。 ・地域とのつながりや日頃の行事など、学校生活と防災の関係を多面的に捉える。	プール開き	・水は人間の生活に恩恵を与える一方、水難事故や津波のように安全を脅かすことを知り、水の取り扱いについて考える。
10・11	○震災遺構を訪問し荒浜地区の住民の思いに迫る。 震災遺構の保存に込められた思いや願いについて考えよう。	学区民運動会 合唱コンクール	・学校は地域との関わりの中で成り立っていることを知り、災害時における地域との連携の重要性に気付く。 ・荒浜小学校のピアノにまつわるエピソードや、震災復興に音楽を通じたコミュニティ形成が大きな役割を果たしたことを知り、「自分ごと」として防災やコミュニティの在り方を考える。
12	・荒浜小学校での現地学習を通して、震災当日の様子や津波被害の実態、地域の方々の生活の様子などについて知る。 ・現地学習を振り返り、気付きや問いを共有する。	避難訓練（火災）	・地震に伴う火災の発生や、東日本大震災が3月に発生したことを踏まえ、寒さの厳しい季節における災害を想定し、対応や備えるべきことについて考える。
1・2	○過去の災害やこれまでの活動を踏まえ、災害発生時に自分が優先的に行うべきことについて考える。 ・電気、ガス、情報、交通、水道等の各インフラが損害を受け復旧が遅れる事態を想定し、自分にできること・自分がなすべきことを考える。	防災・安全マップ作成	・自分の地域の特徴を知り、問題を捉え、防災・安全マップを作成する。
3	○自分の地域における災害状況と問題を捉え、今後の生活の仕方について考える。 ・各教科で学んだ知見を基に、これからの生活の在り方について考える。 ・地域の一員としてどのように地域参画していくか、また未来を担う一員としてどのように社会参画していくかを考える。	防災・安全マップ展示会	・完成した防災マップを見つめ、課題を見つけ、地域の一員としてどのように地域に参画していくか考える。 ・災害だけでなく、身のまわりの危険箇所も含め、地域の人に分かりやすく発信するとともに、未来を生きる次世代に向けて提言する。

震災遺構の活用例

活用プラン③

教科間連携を図った年間指導計画

プラン②と各教科との関連を図った指導計画について、授業事例を交えながら

月	学習内容	防災教育と各教科とのつながり	震災遺構を活用した活動
4	災害が多い我が国の特徴を知る	技術：材料と加工に関する技術—森林の役割	 <p>津波に襲われガレキが充満した荒浜小学校校舎の1階。津波の翌日の状態。(提供・3がつ11にちをわすれないためにセンター/せんだいメディアテーク)</p>
5		技術：情報に関する技術—災害と情報通信 家庭：衣食住の生活 住生活—災害に備えた住空間の整え方	
6		理科：運動とエネルギー—いろいろなエネルギー 社会：日本の様々な地域—自然災害への備え	
7		社会：日本の様々な地域—各地域の自然環境 社会：現代社会と私たちの生活—情報化社会、少子高齢化 技術：エネルギー変換に関する技術—エネルギー資源、エネルギー変換効率	<p>○東日本大震災について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 東北地方太平洋沖地震の発生について知る。 各地域での被害、復興や防災・減災に向けた対応等について知る。
8	災害時の暮らしと生活について考える	家庭：家族・家庭生活—家庭生活と地域の相互の関わり	○荒浜小学校について知る。
9		技術：エネルギー変換に関する技術—電気機器の安全な利用 家庭：衣食住の生活・食生活—非常時を想定した調理	<ul style="list-style-type: none"> 視覚資料を活用し、荒浜地区の被害状況について知る。 震災遺構として残されていることを知る。
10		国語：伝統的な言語文化—歴史的背景などに注意して読む・古典に残る災害を読む活動 (仙台版防災教育副読本)	○震災遺構を訪問し荒浜地区の住民の思いに迫る。
11		理科：電流とその利用—電流と磁界 音楽：荒浜の人々の暮らしや、ピアノの周りにおける日常や思いを想像し、音で表現する活動	<p>震災遺構の保存に込められた思いや願いについて考えよう。</p>
12		理科：電流とその利用—電流と磁界 保健：心身の機能の発達と心の健康—ストレスへの対処 保健：健康と環境—水の役割と飲料水、生活にともなう廃棄物の処理 保健：傷害の防止—自然災害による傷害の防止、応急手当	<ul style="list-style-type: none"> 荒浜小学校および荒浜地区での現地学習を通して、震災当日の様子や津波被害の実態、地域の方々の生活の様子などについて知る。 現地学習を振り返り、気付きや問いを共有する。
1	地域における災害時の問題を捉え、解決に向けた手立てを講じる	理科：大地の変化—火山 社会：歴史の調べ方—身近な地域の歴史の調査 技術：エネルギー変換に関する技術—非常時に役立つものの製作 英語：自国の災害の教訓を海外に伝えよう (NEW HORIZON3 UNIT4)	○過去の災害の教訓やこれまでの活動を踏まえ、災害時に自分が優先的に行うべきことについて考える。
2		理科：大地の変化—地震 理科：気象とその変化—自然の恵みと気象災害 理科：自然と人間—地域の自然災害 社会：日本の様々な地域—身近な地域の調査 社会：よりよい社会を目指して—地域の一員として災害に備える方法について話し合う活動	<ul style="list-style-type: none"> 電気、ガス、情報、交通、水道等の各インフラが損害を受け復旧が遅れる事態を想定し、自分にできること・自分がなすべきことを考える。 ○自分の地域における災害の状況と問題を捉え、今後の生活の仕方について考える。 各教科で学んだ知見を基に、これからの生活の在り方について考える。 地域の一員としてどのような役割を担っていくか、また未来を担う一員としてどのように社会に参画していくかを考える。
3		理科：大地の変化—地層、大地の変化 理科：気象とその変化—自然の恵みと気象災害 理科：科学技術と人間—私たちの暮らしとエネルギー 社会：日本の様々な地域—身近な地域の調査	

POINT

教科における学びとつなぐことにより、荒浜小学校を自分ごととして見つめるのみならず、「防災」を広く捉え、よりよい社会を形成していくための観点へと広げることを目指す。各教科の見方・考え方を生かした指導の中で、荒浜の人々の思いに寄り添うことで、単なる知識の習得にとどまらず、「ひと・まち」の思いをより意識した具体的な行動へと結び付けたい。

※評価規準は前頁を参照

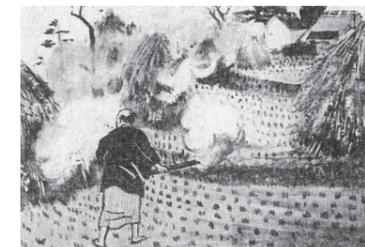
<授業例① 国語>

巨大な地震や津波に繰り返し襲われてきた我が国では、古典文学の中にも災害の様子が描かれている。科学的な知識の乏しい時代に生きていた昔の人々と、現代の私たちとの災害に対する見方や考え方を比べる活動を行う。

(仙台版防災教育副読本より)



鴨長明『方丈記』より、地震が家を崩れ、人馬が倒れる様子。(西尾市岩瀬文庫所蔵)



昭和12(1937)年、『小学国語読本』で初めて我が国の教科書に掲載され、昭和22(1947)年まで掲載が続いた「稲むらの火」。

<授業例① 国語>

古典の中に描かれた災害の別の例。



安政元(1854)年11月5日の安政南海地震に遭遇した和歌山県広川町で、浜口梧陵(儀兵衛)という人物が、津波から避難する目印として、稲むらに火をつけ、人々を巧みに避難誘導した逸話を描いた作品。(宮城教育大学附属図書館所蔵)

<授業例② 音楽>

私たちのピアノのまわりには人が集い、様々な場面で音楽が生まれ、未来へとつないでいく。荒浜小学校のピアノは七郷小学校に移され、今も使われている。このピアノの周りがあった人々や街、思いを想像し、鑑賞や作品づくりなどの音楽作品を創作する活動を行う。



<授業例③ 英語>

日本は災害が多い国であることを海外に伝える(空間軸的な伝承)とともに、震災の記憶や教訓を次の世代に語り継ぐ(時間軸的な伝承)ことの重要性に気付かせることをねらいとした活動を行う。

<授業例④ 社会>

災害時に、地域の人たちと円滑に連携するために、自分たちで平時からできることは何だろう。その具体的な企画をグループごとに考えてポスターを作成する。さらに、発信する上でふさわしい作品を選ぶことを通じて、合意形成と社会参画の在り方を考える活動を行う。

震災遺構での学び

「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」で学べること

3.11 あの日荒浜で起こったこと
荒浜小学校と地域の人々のつながり

小学校の生活
～日々の教育活動～

荒浜地区の生活
～海と暮らす地域～

東日本大震災の被害・津波の脅威と威力

荒浜小学校では、私たちの「いのち」を守るための教訓を学ぶとともに、かけがえのない日々の「暮らし」——小学校と地域の生活を知ることができます。自分ごととして荒浜小での出来事をとらえ、深い学びにつなぎます。

Web版『わたしの防災から、わたしたちの防災へ。』

<http://drr.miyakyo-u.ac.jp/arahama/>

本資料はWebサイトと連動しています。

見学用ワークシート、各プランの詳細など、様々な情報を随時更新します。

- 施設見学に使える！ワークシート
- 各プランの詳細、指導案、実践した様子など
- 荒浜小学校に関するリンク集
- 東日本大震災に関する記録・情報
- 防災教育に関する資料紹介
- その他資料集

QRコードの読み取りに対応した携帯電話をお使いの方は、右のQRコードを撮影して情報を読み取ると、Webサイトへ簡単にアクセスできます。



施設のご案内

【震災遺構 仙台市立荒浜小学校】

https://www.city.sendai.jp/kankyo/shisetsu/ruin_arahama_elementaryschool.html

〒984-0033 宮城県仙台市若林区荒浜字新堀端 32-1

電話番号：022-355-8517

開館時間：10:00～16:00 ※入館無料

休館日：月曜日および第2・第4木曜日（祝休日の場合は翌日）

祝休日の翌日（土日祝を除く）／年末年始

お手洗い：1箇所（隣接する事務所内）。だれでもトイレあり

駐車場：普通車77台・優先2台・大型バス5台（無料）

【せんだい3.11メモリアル交流館】（地下鉄東西線荒井駅舎内）

<http://sendai311-memorial.jp/>

〒984-0032 宮城県仙台市若林区荒井字沓形 85-4

電話番号：022-390-9022

営業時間：10:00～17:00 ※入館無料

休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌日）

祝休日の翌日（土日祝を除く）／年末年始

お手洗い：3箇所（1階・2階・駅側）。だれでもトイレあり

駐車場：専用駐車場なし。近隣の有料駐車場をご利用ください



震災遺構およびメモリアル交流館の周辺図。

<わたしの防災から、わたしたちの防災へ。震災遺構を通じた「いのち」と「暮らし」の学びの手引き>

企画・製作：宮城教育大学 教職大学院／附属防災教育未来づくり総合教育センター 災害遺構活用支援プロジェクト
大林要介（11期生）、高見秀太郎（11期生）、梨本雄太郎教授、小田隆史准教授

協力：仙台市（まちづくり政策局・教育委員会） デザイン協力：川村力

※この手引きは、教職大学院の授業科目「学校教育・教職研究 B（地域協働）」の学習を経て、作成されたものです。